

## (2) 予 測

## ① 予測内容

供用後における主要眺望地点からの景観の変化の程度および内容を予測した。

予測時期は工業団地の供用後、改変地に植栽した草本や木本が活着し、ある程度生育したと考えられる時点（令和20年頃）とした。

## ② 予測方法

現況調査結果から主要眺望地点として抽出した4地点について、現況写真をベースに土地利用計画および工場立地イメージ図から作成した景観予測図（フォトモンタージュ）と、現況写真を対比することによって、景観変化の程度を予測した。

## ③ 予測条件

宅地の配置および造成高さについてはp.11、土地利用計画図を元に想定した。供用後の建築物の計画については現時点では明らかではないため、建物の配置については、p.13、供用後の建築物のイメージ図により想定した。また建築物の高さについては、既存の工業団地等の建物を参考に15mと想定した。建物の形状については直方体と想定した。

## ④ 予測結果

4ヶ所の主要眺望地点と見通し断面の位置を図7-14-2に、各地点の景観予測図（フォトモンタージュ）を図7-14-2～図7-14-6にそれぞれ示す。

- ・ No.13 町道鳥居平・安部居線 鳥居平新田集落付近

視野奥の林地の一部が消滅し、工場建屋の一部が見えるようになると予測される。工場建屋が視野に占める割合は小さく、景観の変化はわずかであると考えられる。

- ・ No.14 国道307号 対象事業実施区域直近

視野の中程の林地の多くが消滅し、造成地と工場建屋群の一部が見えるようになると予測される。工場建屋が視野に占める割合は中程度で、奥の鈴鹿山地のスカイラインは変化しないが、一部既存の工業団地のような景観に変化すると考えられる。

- ・ No.15 国道307号、町道石原・鳥居平線 大谷交差点

視野の中程の林地の一部が消滅し、残置森林の間に工場建屋の一部が見えるようになると予測される。工場建屋が視野に占める割合は小さく、景観の変化はわずかであると考えられる。

- ・ No.16 町道石原・鳥居平線、特別養護老人ホーム白寿荘

視野の中程の林地の多くが消滅し、工場建屋が見えるようになると予測される。工場建屋が視野に占める割合は比較的大きく、既存の工業団地のような景観に変化すると考えられる。

なお、本事業においては、法面には草本による早期の緑化を行うほか、当該地域の樹林地の構成種を主体とする植栽を実施する計画である。よって上記の4地点から眺望できる改変地は、これらの植栽樹木の成長にしたがって外周の残置森林とともに徐々に周辺の里山環境の景観と調和していくものと考えられる。

### (3) 評 価

#### ① 評価の方法

評価は、環境の保全上の目標と予測結果および環境保全のための措置を対比し、その整合性を検討するとともに、景観への影響が実行可能な範囲内で回避または低減されるか否かについて検討することで行った。

#### ② 環境保全のための措置

環境保全のための影響の回避・低減対策は以下のとおり計画している。

##### A. 工事中

- ・ 対象事業実施区域内には概ね30m幅の残置森林または造成森林を配置し、約13%の残置森林を確保するとともに、造成森林と合わせて約29%を森林として確保する。
- ・ 造成森林には高木性樹種の苗木H=1.0mを2,000本/haの密度で植樹する。また、植樹下部には種子吹付(三種混合：メドハギ・ヨモギ・チガヤ)により植栽を施し緑化に努める。
- ・ 裸地の法面や自然緑地の辺縁部の緑化については、法面整形が終了した箇所から逐次早期緑化に努める。
- ・ 法面勾配1:1.8以上の切盛土部については、侵食防止のため種子吹付による緑化を行うことを基本とする。法面勾配1:1.5以下の長大切土部については、比較的傾斜角が大きく地質により吹付けのみでは定着しづらい可能性があるため、育成基盤の保持、流下水による法面表層部の剥落防止を図るため、ネット張植生工による法面緑化を行う。

##### B. 工事完了時

- ・ 区画①Bを除く工場用地については、工場立地法に適合するよう概ね20ha毎に造成森林を配置し、森林の再生を行う。

#### ③ 環境の保全上の目標

景観の環境の保全上の目標は、生活環境の保全上支障を招かないことを基本として、次のように設定した。

形成される工業団地の外周に造成森林等を設けることで周囲から遮蔽し、周辺の里山環境や自然環境と調和させること。
--

#### ④ 環境の保全上の目標との整合性の検討

対象事業実施区域周辺地域における現地踏査の結果、観光、レクリエーションおよび生活にそれぞれ区分される地点について、対象事業実施区域が重要な景観要素となっている

地点はなかった。

主要眺望地点として選定した4地点からの供用後の景観は、現況の林地が消滅し、変わって工場の建屋が建設されることで、No.14 国道307号 対象事業実施区域直近とNo.16 町道石原・鳥居平線、特別養護老人ホーム白寿荘については既存の工業団地のような景観に変化すると予測された。

No.13 町道鳥居平・安部居線 鳥居平新田集落付近とNo.15 国道307号、町道石原・鳥居平線 大谷交差点については、工場建屋の一部が見えるようになるものの視野に占める割合は小さく、景観の変化はわずかであると予測された。

景観が変化すると予測された地点についても、法面には草本による早期の緑化を行うほか、当該地域の樹林地の構成種を主体とする植栽を実施する計画であり、植栽樹木の成長にしたがって外周の残置森林とともに徐々に周辺の里山環境の景観と調和していくものと予測された。

以上により予測を行った主要眺望地点4地点の景観への影響予測結果は環境の保全上の目標と整合性している。

ただし、本予測結果はp.495、③ 予測条件を前提として環境の保全上の目標と整合しているものであることから、進出企業に対しては販売時に建物の高さ等を予測条件に収まるよう要請する。

予測条件とした高さ15mを超える建屋や工作物等が設置される場合は、色彩や形状等について、滋賀県景観計画ガイドラインの基準に沿って周辺景観と調和したものにするといった配慮を立地企業に対して要請する。

## ⑤ 評価

予測を行った主要眺望地点からの景観の予測結果は環境の保全上の目標と整合が取れていることから、実行可能な範囲で影響を回避または低減できていると評価する。